

IV-18

東北地方における高速道路の整備効果

建設省 東北地方建設局

企画部企画課 ○前田陽一 高橋弘典 千葉満也

1. 調査の背景と目的

高速道路は、地域間の時間距離の短縮などにより、沿線地域の工業などの諸産業の活性化、行動圏の拡大による日常生活の利便性などを確保するとともに、地域間の交流と連携を支援し、地域の振興に大きく寄与している。

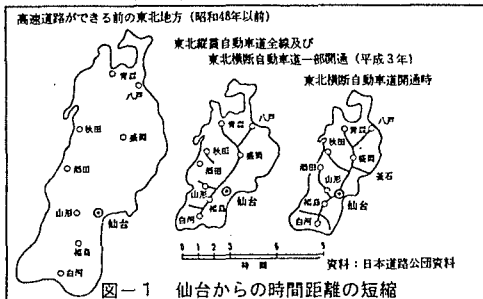
ここでは、東北地方における高速道路の整備効果として、道路を利用する人々が受ける直接効果と、利用しない人々まで含めて広く地域が受ける間接効果について、主要な事例を整理した。

2. 高速道路の直接効果

(1) 輸送時間の短縮

高速道路を利用する最大の理由の一つは、移動時間が短縮することである。したがって、高速道路を利用すれば、地域間の時間短縮は、大幅に短縮される。

例) 平成2年時点で高速道路を利用した場合、一般道路利用に比べて、青森～東京間で約10時間、仙台～東京間で約5時間の時間短縮が図られる。



(2) 走行経費の節約

高速道路の利用は、一般道路に比べ発進・停止や加速・減速回数が少なくなるため、燃料費、油脂費、タイヤチューブ費など走行経費の節約につながる。

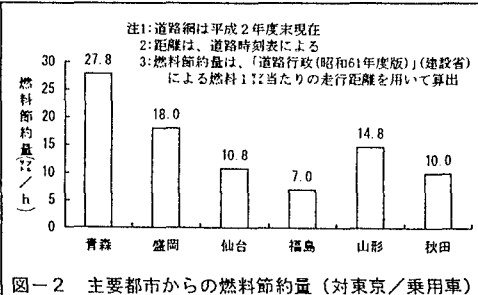
例) 平成2年時点で高速道路を利用した場合、一般道路利用に比べて、青森～東京間で乗用車1台当たり約28%、盛岡～東京間で約18%、山形～東京間で約15%の燃料が節約される。

表-1 東北縦貫・横断自動車道を利用した場合の各都市間の移動時間の短縮

対東京		青森	盛岡	仙台	福島	郡山	会津	山形	秋田	八戸
現道	1,114	814	570	450	378	463	659	853	1,001	
東北道	488	372	268	217	190	242	291	507	456	
短縮時間	626	442	302	233	188	221	368	346	545	

対仙台		青森	盛岡	福島	郡山	会津	山形	秋田	八戸
現道	544	274	129	192	276	89	351	436	
東北道	251	138	76	111	163	82	270	219	
短縮時間	293	136	44	81	113	7	81	217	

注) 道路網は、平成2年度末現在
距離および時間は、道路時刻表
但し、東北道の速度は、法定速度(80km/h、100km/h)を用いた。



(3) 交通事故の減少

高速道路は、一般道路に比べ完全出入制限であり、広幅員の車線、ゆるやかな線形を有しているなど規格の高い構造であることから、交通事故の発生する確率が極めて低い。

例) 平成2年における東北地方の高速道路の事故率は、直轄国道に対して約4分の1、D I D区間に限ってみれば約7分の1という低い値を示しており、これは高速道路が安全性の高い道路であることを裏付けている。

表-2 東北地方における死傷事故率および事故件数（平成2年）

道路種別	直轄国道		高速自動車道	
	D I D	計	計	
青森県	140 (3,148)	72 (10,398)	16 (204)	
岩手県	86 (2,489)	54 (10,300)	10 (867)	
宮城県	86 (7,191)	55 (16,759)	13 (1,327)	
秋田県	105 (2,361)	63 (12,606)	14 (107)	
山形県	72 (2,407)	41 (10,643)	- (-)	
福島県	198 (6,830)	93 (29,308)	22 (2,310)	
東北管内計	108 (24,426)	63 (90,012)	15 (4,815)	

注) カップ内数値は、事故件数を示す。
資料：平成2年度道路交通センサスによる

3. 高速道路の間接効果

(1) 産業の振興

■事例：工業出荷額の増大

高速道路は、輸送条件の向上により、沿線地域に新たな工場立地を促進するとともに、既存の工場の生産活動を活発化にさせる。

例) 岩手県内の東北縦貫自動車道IC周辺圏域の工業出荷額が、非周辺圏域や全国平均を上回って増大している。

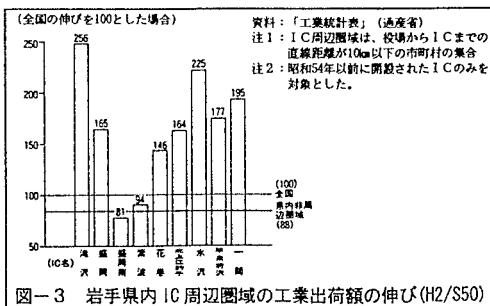


図-3 岩手県内IC周辺圏域の工業出荷額の伸び(H2/S50)

(2) 日常生活の利便性の確保

■事例：自然災害時における生活交通の確保

高速道路は、規格の高い構造を有していることかつ、豪雪、豪雨、台風などの異常気象による自然災害に強く、交通の途絶を防ぎ、人々の生活を守る。

例) 平成6年9月30日台風26号によって、山形～仙台間を結ぶJR仙山線が、11月末までの約2ヶ月間不通。しかし、東北横断自動車道酒田線を利用したJR代行バスや定期運行中の高速バスの増発など1日約100台のバスによって、通勤・通学者など約5千人の交通が確保された。

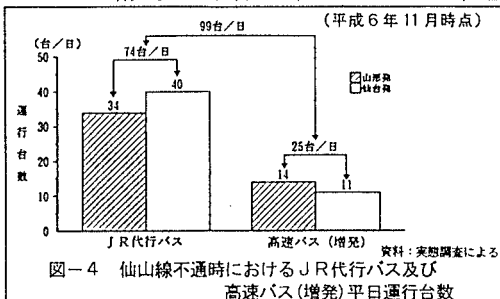


図-4 仙山線不通時におけるJR代行バス及び高速バス(増発)平日運行台数

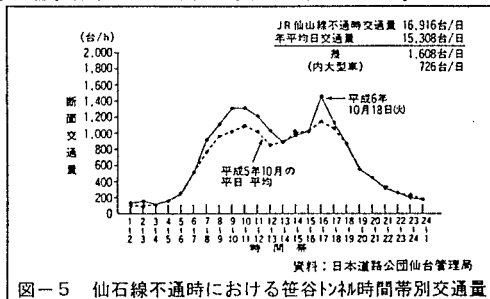


図-5 仙山線不通時における笹谷トンネル時間帯別交通量

(3) 交流の拡大

■事例：交流機会の拡大

高速道路の整備は、生活圏の拡大をもたらし、その結果として通勤・通学、レジャー・観光などの地域間交流を拡大する。

例) 福島県いわき市では、常磐自動車道が整備されたことにより、いわき～首都圏間の交流が活発になった。特に、隣接県である茨城県との結びつきは、昭和49年と比較すると、平成2年に3.4倍の伸びを示した。

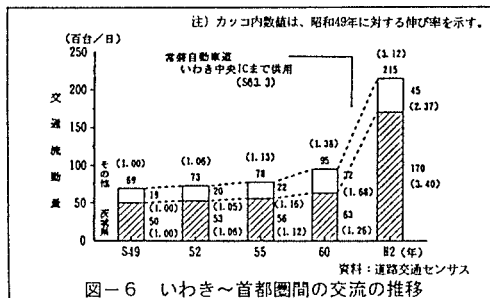


図-6 いわき～首都圏間の交流の推移

(4) 地域づくり

■事例：人口の定着

高速道路が整備されることによって、交通条件が向上し、産業の振興が図られ、所得水準が向上し、生活の利便性が高まることから、人口が定着する。

例) 岩手県では、東北縦貫自動車道の供用によって、沿線地域の工業等、産業の振興が図られ、所得水準が向上し、人口が増加している。

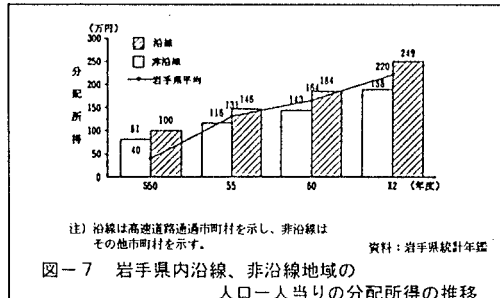


図-7 岩手県内沿線、非沿線地域の人口一人当りの分配所得の推移

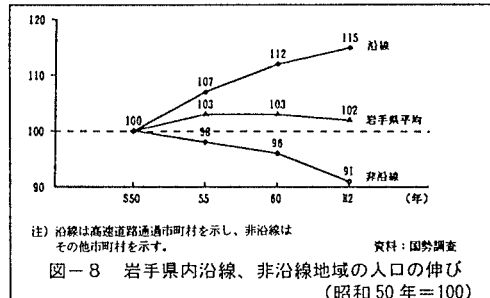


図-8 岩手県内沿線、非沿線地域の人口の伸び(昭和50年=100)